

## 2023年度事業・活動報告

### 1. 衣類、毛布、バッグなどの回収とP&Jカンパニー（以下PJC）への送り出し

2023年度計画120トン：実績114.1トン（計画対比95.1% 前年度対比115.6%）

	回収期間	回収量	参加人数
1回目	2023年10月～12月	31,455 kg	4,448人
2回目	2024年1月～5月	42,205 kg	4,684人
3回目	2024年6月～9月	40,440 kg	5,722人
	合計	114,100 kg	14,854人

2023年度の回収は計画を120トンとしました。回収受付期間は年に3回設けました。参加人数は延べ14,854人で、前年より延べ858人増えました。回収協力団体で新しくイベントでの回収の機会を設けていただき、

合計回収量は114.1トンとなりました。昨年度より15.4トン増えましたが、計画比95%となり目標を達成できませんでした。回収参加を増やすために、受付期間を延長しました。

回収協力団体の皆様には積極的に広報や拠点での回収、配達便での回収などにもご協力いただき、回収量の70%は協力団体の所属メンバーの方からの回収でした。

JFSAの会員・支援メンバーの方からの回収は年間で10.9トンとなり、回収量の9.6%（延べ1,354人）でした。ご協力ありがとうございました。

\*協力団体の方々やその他の回収は「6. 多様な団体との連携」、資料「2023年度団体別回収集計」をご覧ください。

#### ① 地域のコミュニティスペースやイベントなどで回収企画

幕張ベイタウン、ベイパークで定期的に回収を行ないました（年間9回 ※うち2回は地域のまわりに参加）「ぼっぼの市」（千葉市稲岸公園）では4月と11月に回収を行ないました。

ユニモちはら台（ショッピングモール 市原市ちはら台）では5月の連休に4日間続けて回収を行ないました。9月にも企画提案をしましたが、事業者が他の回収の取り組みを始めることになり実施できませんでした。

多世代交流拠点「おおなみこなみ」（千葉市花見川区）で回収と販売を行なっていただきました。宅幼老所「サンタのおうち」（千葉県市川市）で地域の方に呼び掛けて回収をしていただきました。

#### ② チラシやホームページ、SNSを活用した情報発信

回収のお知らせチラシは、回収に参加した方には次回の郵送し、店舗にもおきました。また、イベント回収や活動報告会では参加者に配布しました。ホームページ、フェイスブック、インスタグラムでは回収の企画や回収イベントの実施の様子などを紹介しました。イベント回収周辺地域で回収に参加した人（過去2年以内）にDMで案内を送り効果がありました。

#### ③ 回収品目の拡大の可能性を、PJC協力して検討

PJCと話し合い、タイのマーケットで需要の高いぬいぐるみとアクセサリを新しく回収品目に加えました。

#### ④ 回収協力団体に回収企画を提案

2024年2月に協力団体にイベント回収企画を提案し実施していただきました。

#### ⑤ 近隣の学校と連携した回収取り組み

地域の小学校で年末回収のチラシを配布していただきました。昨年からの回収に参加した地域の高校では周辺の中学校にも参加を広げていただきました。

### 2. PJCとの連帯事業活動の推進とアル・カイルアカデミーの運営支援

PJCにはJFSAから109.3トン、グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部から46.5トンの衣類等が輸出されました。PJCからアル・カイルアカデミーへの運営支援金は、353万500ルピー（1ルピー≒0.55円/2024年6月現在）になりました。

## 1) P J Cへのコンテナ輸出

前年度は輸入規制のためにパキスタンへの輸出を行ないませんでしたが、2024年2月に約1年半ぶりに再開し輸出できました。前年度は計3回

● J F S A古着送り出し	コンテナ積み込み	倉庫着	送り出し量
第83回タイ	2023年10月19日	2023年11月8日	23,578 kg
第84回パキスタン	2024年2月15日	2024年4月5日	23,278 kg
第85回タイ	2024年4月25日	2024年5月14日	21,127 kg
第86回パキスタン	2024年6月20日	2024年8月7日	23,862 kg
第87回タイ	2024年9月19日	2024年10月21日	17,409 kg
<b>合計</b>			<b>109,254 kg</b>

送り出し(全てタイ向け)、輸出量は75,807kgでしたが、今年度はタイ、パキスタンに交互に輸出し、計5回の送り出し、輸出量は109,254kgとなりました。これまでのタイとパキスタンでの販売実績から、需要に合わせてアイテムごとに輸出先を振り分け、輸出しました。

パキスタンに輸出したコンテナは、P J Cから卸業者ニアーズ氏に販売されました。タイに輸出したコンテナはW A S代表のアリ・シャー氏の協力を得て販売しました。W A Sの倉庫のあるカンボジア国境の街アランヤプラテートでの卸売りだけでなく、アフリカの業者への販売(タイからアフリカに再輸出)やタイで需要の低いアイテムをパキスタンに再輸出する等、ネットワークを活かして、新たな販路の開拓をすすめました。

輸出コンテナの売上増加を目指し、新たにぬいぐるみとアクセサリーの回収を始めました。2024年7月にサンプルとともに現地調査を実施し、第87回コンテナで本格的に輸出を行ないました。リネンレンタルの(株)東基様より、パキスタンで需要のあるリネン類(計8,485kg)の寄付を受け、輸出しました。

● グリーンコープ・ファイバーリサイクル 事業部古着送り出し	コンテナ積み込み	倉庫着	送り出し量
第32回パキスタン	2023年11月24日	2024年1月	22,620 kg
第33回パキスタン	2024年5月24日	2024年7月	23,920 kg
<b>合計</b>			<b>46,540 kg</b>

## 2) J F S Aの輸入販売事業

販売を向上させるために作業を細分化し、各作業の問題点を明確にしてその解決に努めました。販売担当責任者が販売状況をとりとまとめ、その共有と課題を協議しながら進めており、前年比146%となりました。1月のタイでの買い付けには新事務局が同行し、研修の機会を設けました。取扱品目増加を目指し、パキスタンで仕入れたリメイク用素材を現地で加工して日本へ輸入しました。P J Cを通じた古着輸入にも取り組み始め、2024年9月に6,680 kgを輸入しました。

## 3. 国内事業の推進

### 1) センター業務

#### ① 千葉センター

輸出先の需要について、派遣を通して現地視察を行うとともに、P J C、W A Sに随時確認を行ない、需要の把握に努めました。輸出先で需要の高い品目や特定のブランドについては、国内需要とのバランスを取りながら、積極的に輸出用に仕分けました。輸出アイテムの種類分けは、現地のニーズに沿った見直しを行ない、アイテム数を従来の52種類から74種類に増やしました。

国内販売用については、従来よりも選別基準を絞り込む見直しを行ない、その結果、前年度と比較して、男女夏物、バッグ、靴は特に輸出に回す量が増加しました。

新たな回収品目のぬいぐるみを保管する置場と、タイ向けとパキスタン向けのベールを分けて保管するためのベール置場を増設しました。

選別協力団体が定期的に作業に参加しました。野菜の店頭販売や軒先市への出店を通し、団体の目的や活動への理解が深まりました。コンテナ積み込みへの協力がありました。

#### ② 東葛センター

・在庫管理…導線と作業スペースの確保を維持して、安全な環境づくりに努めました。

国内回収品は、一部の雑貨類を除いた 2 次選別は、千葉センターでの作業に一本化しました。選別箇所を一本化することで、作業遅延による回収品の滞留を抑制しました。また、定期的なセンター間移動で、作業スペースを確保しました。

選別協力団体の紙ふうせんは、倉庫内の夏の暑さと冬の寒さによる安全面でのリスクを考慮して、夏は 7～9 月、冬は 1～2 月の間は休みにしてもらいました。

・作業場環境…定期的な不用品の処分、敷地周りの清掃と草刈りを行なって、作業場の美化に努めました。

## 2 ) ショップ販売

### ① 千葉店 (古着ショップ CHARKHA BAZAAR チャルカバザール)

目標予算に対して 108%となり、予算を達成することができました。国内回収古着の商品数を減らし、輸入古着の割合を増やすことで P J C の事業推進に繋げました。(メンズ古着の店頭陳列数の 52%が輸入古着 \*2024 年 9 月末) 購入者数は前年の 88%、販売点数は 89%と減少しましたが、一点あたりの単価は 138%の増加 (780 円→1076 円)、客単価は 122%の増加 (2282 円→2794 円) となり、全体的な売上は増加 (売上前年度比 国内回収品 102%、輸入古着 142%) しました。

輸入古着は、商品管理を行なっている東葛センターと連携して販売する体制づくりをすすめました。全体の売上に占める輸入古着の割合が前年度 15%から今年度 19%に増加しました。

広告宣伝については、Instagram、公式 LINE、郵便ハガキを年齢層に応じて使い分けました。毎月の軒先市に合わせて割引クーポンを配信し、集客と新規顧客の獲得、再来店につながりました。

### ② 柏店 (古着ショップ kapre カブレ)

SNSを利用した集客で前年の 1 割以上お客さんが増えました。4 月から新事務局が加わって、不足していた作業の体制が整いました。コロナ後の来客状況の変化により、上半期の売り上げは昨年度対比で 2 割程減少しましたが、状況に合わせたレイアウト変更と SNS の集客に力を入れたことで下半期は前年度より 2 割程良くなり、ほぼ前年度並みになりました。それ以降は不調であるオンラインストアの売上向上に努めました。結果として 8、9 月は予算を達成できましたが、活動に対して十分な収益は得られなかったため、体制については課題となりました。

## 3 ) 街商販売 (フリーマーケット、イベント、デポー販売、着物販売)

フリーマーケットやイベントについては出店の目的を明確にした上で選定し、出店回数を昨年比 62%の 13 回に減らしました。売上は昨年比で 47%でした。

生活クラブ虹の街の協力で年間通してデポーで販売を継続させていただきました。デポーみつわ台を除き売上を伸ばすことが困難でしたが、来店した方へ J F S A の活動を伝える機会とすることができました。売上は昨年比で 90%でした。

着物販売企画は、毎月第 1 土曜日にまる空間で和衣マルシェちば with Tomo's cafe を開催しました。選別と販売にはボランティアチーム「和(なごみ)」の継続的な協力がありました。和衣マルシェの顧客の方が別に独自企画を開催するなど、着物に関心を寄せる方との交流が広がりました。都内のイベント等への出店を控えた結果、開催・出店回数は昨年比 80%、売上は昨年比で 52%となりました。着物は原則として回収をしていないため、商品確保が課題となりました。保管スペースの効率化のために着物在庫の整理を進めました。

街商全体として予算を達成することができませんでした。

## 4 ) 販売協力団体による販売 (委託販売)

アースマーケットでは常設販売を行なうことで、古着を購入する常連客が定着しています。店舗

での古着回収量は117.7キロありました。おおなみなみは、4月に古着回収と販売を合わせた企画を行ないました。回収量は65キロありました。あみあみは、毎月の軒先市、地域のイベントに出店の際に毛糸・生地類の販売を行ないました。

#### 5) 市民活動と連動した企画

① 協力団体主催の企画 協力団体の主催する企画に出店参加しました。

#### ② 実行委員会参加企画

・ぼっぼの市：11月と4月、稲岸公園にて開催しました。JFSAの活動紹介、古着の販売と回収を行ないました。

・新松戸中央公園チャリティーフリーマーケット：実行委員会に参加しました。JFSAは他の企画と重なり当日参加できませんでした。

③ JFSA主催バザール企画：千葉センターは開催会場の公園の工事が未だ終了しないため開催できませんでした。東葛センターでは12月と5月に開催しました。

### 4. 広報活動

#### 1) 会員の増減

会員、支援メンバーともに昨年を下回りました。新規の入会者を増やすための活動への取り組みが不十分でした。

	会員数（うち新規入会数）	前年比	口数	前年比	計画口数
会員（個人）	166名（12名）	-15名	184口	-12	200口
支援メンバー（個人）	1,165名（84名）	-55名	1,333口	-51	1,400口
会員（団体）	11団体（0）	±0	11口	±0	11口
支援メンバー（団体）	7団体（0）	-1	7口	-1	5口

#### 2) 会報など

会報を3回（63～65号）発行し、会員、支援メンバー、協力団体などに送付しました。イベント回収や活動報告会、センターへの回収持込みの方にもお渡ししました。

ホームページでは、QRコードを活用し回収のお知らせのページ、イベント回収企画の案内などが見やすくなるように努めました。SNSで回収企画や出店、コンテナ積み込みなどの情報を定期的に掲載するように努めました。

回収のお知らせを3回発行し、回収に参加した方に、活動紹介、入会のお誘いととも送付しました。イベント回収会場での配布やイベント案内のダイレクトメールでも送付しました。JFSAの店舗でも配布しました。

#### 3) サポーターグッズ

アル・カイルアカデミーの生徒たちに、自分の好きな言葉を書いてもらい、それを挿絵にカード型のカレンダーを作りました。翻訳は日本に住むパキスタンの方に協力していただきました。会報65号と一緒に会員・支援メンバーの方に送りました。

#### 4) ボランティアの参加

コンテナ送り出しの積み込みに協力いただきました。会報や回収案内の発送作業に協力をいただきました。イベント回収企画の当日のお手伝いに協力していただきました。

和服の専門知識のある方たちのグループ「なごみ」に整理や販売に協力いただきました。

ファイバーリサイクルうらやすのメンバーが、定期的に一次選別に協力していただきました。

千葉市生涯大学のOBの方が2人、毎月1回一次選別、切手の整理に協力していただき、8月か

らは新たに1人が参加しました。

## 5) 活動報告会・交流会など

10月に招日したPJCのカユーム氏、WAS代表のアリ氏といっしょに協力団体を訪問し、活動報告の機会をいただきました。

11月の定期総会の後に「JFSAとPJCの連帯事業 今とこれから」をテーマに交流会を行いました。

協力団体主催の「JFSA活動報告会&パキスタンカレー昼食会」を2回(2024年6月、7月)開催していただきました。参加した方たちから、回収品目への質問やご意見を伺うことができ、直接に情報のやり取りができる良い機会となりました。

### 【2023年】

- 10月 都小学校2年生まち探検受入れ 生活クラブ東京招日訪問 淑徳大学講師  
ファイバーリサイクルうらやす定期総会 生活クラブ虹の街千葉グループ2023年秋の交流会  
パルシステム千葉招日報告会&パキスタンカレー昼食交流会 パルシステム千葉キューブ館山まつり  
パルシステム茨城 栃木スマイルパル土浦館回収 APF総会 生活クラブ埼玉理事会招日報告会  
グリーンコープ地域運動交流集会 千城台高校招日交流
- 11月 ぼっぼの市 千葉市地域づくり大学校ボランティア体験会(4回)
- 12月 まちづくりフェスタ with (FRうらやす協力)  
生活クラブ茨城水戸センター/取手センター仕分けと交流会 生活クラブ虹の街虹色フェスタ

### 【2024年】

- 1月 生活クラブ東京新年会 千城台高校生徒一次選別ボランティア
- 2月 幕張インターナショナルスクール6年生見学体験
- 3月 パルシステム茨城 栃木/栃木センター衣類回収 ・まちづくりフェスタ with (FRうらやす協力)  
生活クラブ茨城水戸センター/取手センター/牛久センター仕分けと交流会  
パルシステム茨城 栃木福祉平和国際交流報告会
- 4月 ぼっぼの市 FRうらやす一次選別体験研修
- 5月 生活クラブ虹の街柏ブロック総代会 ファイバーリサイクル四街道定期総会
- 6月 NPOクラブ定期総会 アーシアン定期総会 生活クラブ東京環境政策委員会学習会  
生活クラブ埼玉サステイナブル委員会学習会 生活クラブ虹の街総代会  
生活クラブ茨城取手センター報告会&パキスタンカレー昼食会 ワーカーズコレクティブ「結」総会  
生活クラブ虹の街佐倉ブロック報告会&パキスタンカレー昼食会  
パルシステム茨城 栃木エンジョイパル日立館回収
- 7月 生活クラブ茨城水戸センター仕分けと交流会  
多摩南生活クラブイベント@八王子「おいしさのヒミツ体感フェス」回収  
生活クラブ茨城取手センター仕分けと交流会/ファイバーリサイクル協議会
- 8月 23区南生活クラブイベント@世田谷「たべてはじめるSDGs」回収
- 9月 生活クラブ埼玉イベント@川口「再エネ・省エネフェスタ」回収  
23区南生活クラブイベント@武蔵小山「たべてはじめるSDGs」回収  
多摩きた生活クラブオンライン活動報告会

## 5. 研修

協力団体の定期総会企画として行なわれた学習会に参加しました。また担当ごとに業務に関わる事について必要に応じて研修を行ないましたが、全体としての研修は行ないませんでした。

## 6. 多様な団体との連携

### 1) 地球市民交流基金アーシアン

PJC代表カユーム氏、WAS代表アリ氏との招日交流を行ないました。

## 2) NPOクラブ

理事として参加しました。おおなみなみで古着の委託販売と回収を行ないました。千葉市地域づくり大学校企画に参加しました。

## 3) ファイバーリサイクル四街道、ファイバーリサイクルうらやす、ファイバーリサイクル佐倉

・ファイバーリサイクル四街道・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。縫製工房への寄付をいただきました。コンテナ積み込みボランティアに参加していただきました。4月以降、新体制での活動が始まり、新役員の方々が訪問されました。

・ファイバーリサイクルうらやす・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。アル・カールアカデミーのコンピュータークラスへの寄付をいただきました。千葉センターの一次選別ボランティアに定期的に来ていただきました。着物販売企画の実施、イベント出店に協力していただきました。

一次選別体験研修を受け入れました。

・ファイバーリサイクル佐倉・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。縫製工房への寄付をいただきました。

## 4) 団体会員、団体支援メンバー

回収協力団体では回収の広報を定期的にしていただき、メンバーの方たちの回収参加、イベント回収の実施、活動報告会開催などに協力していただきました。

① 大地を守る会（回収協力団体）・・・コンテナ積み込みに参加していただきました。回収お知らせチラシの会員の方への配布、広報紙での紹介、WEBでの広報に協力していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。PJC代表カユーム氏、WAS代表アリ氏と招日交流していただきました。

② パルシステム千葉（回収協力団体）・・・広報紙での紹介、イベントでの回収、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。PJC代表カユーム氏、WAS代表アリ氏と招日交流活動報告会を開催していただきました。組合員の方がコンテナ積み込みに参加していただきました。

③ 生活クラブ・東京（回収協力団体）・・・広報紙に記事を掲載して回収のお知らせと活動を紹介していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。PJC代表カユーム氏、WAS代表アリ氏とともに活動報告をしました。回収イベント企画の提案を行ない3回開催していただきました（2024年度も2回開催を予定）コンテナ積み込みに参加し取材していただきました。活動報告会を開催していただきました。

④ 生活クラブ虹の街（回収協力団体）・・・配達便による回収（年3回）、デポー（生活クラブの店舗）での回収（年6回）と販売、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。ぽっぽの市に出店していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。活動報告会&パキスタンカレー昼食会を開催していただきました。コンテナ積み込みに参加していただきました。

⑤ ポラン広場（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。

⑥ 社会福祉法人風の村・・・「虹と風のファーム」が千葉センター軒先市に出店していただきました。千葉ショップで野菜受託販売を行ないました。

⑦ 生活クラブ茨城（回収協力団体）・・・配達便による回収とその後の仕分け&交流会の開催に協力していただきました。回収活動を担うブロックの活動協議会に参加しました。活動報告会&パキスタンカレー昼食会を開催していただきました。縫製工房にオーダーをいただいた40周年記念品を

納品しました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

⑧ グリーンコープ・・・洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。P J C代表カユーム氏、W A S代表アリ氏が地域活動交流集會に招かれ活動の報告をしました。「ゆうあいショップ」スタッフにオンライン研修を行ないました。

⑨ パルシステム茨城 栃木（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。センターでの回収企画を実施していただき、招日中のP J C代表カユーム氏、W A S代表アリ氏が参加しました。

⑩ 生活クラブ埼玉（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。P J C代表カユーム氏、W A S代表アリ氏とともに活動報告をしました。回収イベント企画の提案を行ない1回開催していただきました（2024年度も2回開催を予定）

⑪ 常総生協（回収協力団体）・・・配達便による回収を行なっていただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

#### 5 ) 他のNPO/NGOとの交流

企業組合あうんが毎月のJ F S A軒先市に参加しました。また企業組合あうんが主催する「あらかわ再発見」に出店参加しました。

#### 6 ) 企業や団体、学校との協力関係

・千葉センター軒先市と東葛センターカプレバザール開催時に、周辺事業者から駐車場を借用しました。

・幕張インターナショナルスクール6年生による回収と選別体験会が実施されました。

・都小学校の「まち探検」の授業に協力しました。

・ユニモちはら台にて回収を行なう「スマイル・リユース」企画に参加しました。

・エー・シー・エス債権管理回収(株)に、社員の方を対象にした衣類などの回収に協力いただきました。コンテナ積み込みに協力いただきました。

・損保ジャパン千葉県に、社員の方を対象にした衣類などの回収に協力いただきました。

・千葉日産自動車に、社員の方を対象とした衣類などの回収に協力いただきました。コンテナ積み込みに協力いただきました。

・環境街づくりNPOエコメッセに回収に協力いただきました。

・淑徳大学で講師に招かれました。学生がコンテナ積み込みボランティアに参加しました。

・千葉経済大学で講師に招かれました。学生が選別ボランティアに参加しました。

・千葉県立千城台高校から回収の取り組みを地域の中学校に呼びかけていただき、加曽利中、更科中も回収に参加しました。

・ちばし地域づくり大学の受講生の体験授業に協力しました。

・明治安田生命木更津営業部に、社員の方を対象にした回収に協力していただきました。

・愛和病院が利用者の方に呼びかけて回収に協力いただきました。

#### 7 ) A P F（互恵のためのアジア民衆基金）

A P F理事会に出席しました。また東京で開催されたA P F総会にP J C代表のカユーム氏とともに参加しました。総会ではJ F S Aやアル・カイーアカデミーの近況を報告しました。またP J C設立の趣旨を報告し、A P Fへの社員としての参加の意向を伝えました。

A P Fメンバーのハンサリム連合は、継続して古着回収を実施し引き続き韓国内で販売。その売上をアル・カイーアカデミーの運営支援金、ハンサリム連合の交流費に充てました。また次期韓国

での総会におけるアル・カイルの写真展、ハンサリムとアル・カイル、P J C、J F S Aの交流会開催に向け準備に協力しました。

#### 8) 社会福祉法人グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部との連携

オンライン会議を含め日常的に連絡を取りP J Cへの輸出に関わる情報を伝え、輸出手続きに協力しました。

### 7. アル・カイルアカデミーの教育、連帯事業に関わるパキスタンの人々との交流

10月にP J C代表カユーム氏とW A S代表アリ・シャー氏を招日しました。5月と9月に事務局のパキスタンへ派遣と同行者の訪問を計画しましたが、ともに直前に治安の状況が悪化し、中止しました。

### 8. 危機管理の充実

- 1) 国内事業 各センターにて危機管理の充実に努めました。
- 2) 海外事業 海外派遣を計画する際、リスクマネジメントマニュアルの再確認を行ないました。

### 9. 働き方の改善への取り組み

就業規則改訂のため、毎月、顧問社会保険労務士との相談を行ないました。

## 洪水被災復興支援活動

### 【 取り組みの経緯 】

2022年8月に起きたパキスタン大洪水の直後にアル・カイルアカデミーは被災地に行きました。被災した人々から状況をきき、生徒たちも参加して食料支援や医療支援を行ないました。J F S Aは2022年11月に理事長と理事1名を被災地に派遣し、現地の状況を知るとともに、村人たちや支援に参加した学校の生徒、スタッフたちに話を聞きました。

その後もアル・カイルアカデミーは国内外の寄付者から資金を得て支援を続けました。そして、支援が届いていなかったブンド村の人々に出会って話し合った結果、村にとどまってこれまで同様に農業を続けていきたいという村人たちの希望を受けて、家屋再建支援に取り組むことを決めました。J F S Aは2010年の洪水被災復興支援カンパ金の残金約300万円を届け、2023年5月までに20軒、アメリカのN G Oからの支援で10軒、合計で30軒の家屋が建設されました。

家屋の再建が必要な世帯は125軒ありました。アル・カイルアカデミーからの協力要請を受けて、2023年4月の理事会でJ F S Aとしてカンパ活動に取り組むことを決めました。

### 【 カンパ活動と支援の状況 】

2023年5月に会報とともにニュースを発行し、6月に案内のニュースを発行しました。会員、支援メンバー、協力団体、活動に協力して下さっている個人や団体の方々に会報とニュースを送り協力を呼びかけました。ホームページにカンパ協力の呼びかけを載せました。回収イベントなどで写真を展示し協力を呼びかけました。カンパ活動の期間は6月～8月とし、受け入れは2023年12月までとしました。

呼びかけに応じて下さった個人や団体の方からのカンパ金総額は1109万4317円となり、2024年3月に家屋の再建資金として集まったカンパ金から500万円を送金しました。アル・カイルアカデミーは定期的に現地を訪問し、村人との関係を深めながら必要な支援を続け、その状況を伝えてもらいJ F S Aの会報に掲載しました。

### ◎カンパ金の最終合計 1109万4317円 (2024年3月8日)

内訳 個人：315万184円(604人) 団体：828万8496円(16団体)